

節目で伸びる子を育てる

連休明けから、運動会の特別時程となります。一番大事なものは、表現などでの技の出来映えではありません。練習から本番に至るまでの過程で、「子どもに何が身に付いたか。」ということです。また、それが通常の教育活動の中で生かされ、子どもが自信を付ける。学力を付ける。ベクトル力(ぐいと伸びていく力)を付けるということだと思います。

今までの経験の中で、行事をそういう視点で指導をされておられた先生の指導例です。

- ・運動会で、行進の練習を取り入れ、その後、全校朝会での行進が、全校での見本となった。
- ・組体操で支える際の痛みを「命の重さ」と教え、思いやりの心が育った。
- ・移動教室で5分前行動を徹底し、その後もその学年は授業の開始に遅れることがなくなった。
- ・遠足で話を聞くことを徹底し、教師が全体に立つだけで静まり良く話が聞けるようになった。

逆に、行事が終わったら、時間がルーズになった。落ち着きがなくなった。次の目標がなく学習意欲を喚起するのが難しくなった。他の教科の時数にしわよせが出来て、学力の定着が遅れてしまった。・・・という話も聞きます。

要は、指導の仕方だと考えます。学年で育てたい事柄について共通理解を図り足並みを揃えた指導を行うこと、練習を終わりには、必ず評価をしてあげること、育てた力が他の教科にも生かされるようにしていくことなどが大切です。

練習の過程を大切に(運動会に向けて)

- ・本番を成功させることは、運動会の最終目標ではありません。
- ・あくまでも、「教育目標の達成」「人格の完成」です。そのために大切なのは、学習の過程です。
- ・指導のやりっ放しにならないようお願いいたします。(時間に追われることはよくわかります)
- ・学習の前に「めあて」の確認を、終わりには「めあて」の振り返りを必ずさせてください。
- ・学年での目標を共有しましょう。頑張っている子をほめましょう。個別に、全体に。さりげなく、おおげさに。
- ・常に冷静さを保ちましょう。情熱をもつことと熱くなることは同じではありません。
- ・決められた時間内での指導をしてください。
- ・徒競走の練習時間を確保してください。練習の最後に全力疾走させるなど。

安全を何よりも最優先に

6年生には、全校でバックアップ(無理のない範囲です)をしていきましょう。私も組体操の練習には全面的(区の方針でもあります)に関わります。体育的行事における事故の危険性については、繰り返し報道されている所です。高さのある技を行う際には、きめの細かい安全の配慮が必須です。特に、体育館では十分に配慮(一斉ではなく部分的・段階的に行う。マットを敷くなど)することが大切です。(自主的な練習時間には、さらに注意をしていきましょう)骨折は言わずもがな、捻挫等が発生しても大きな問題として取り上げられる今の状況を理解して指導をする必要があります。週毎の指導計画には、安全面の配慮事項をご記入ください。学年としての安全計画を綿密に立て、チームとしてのご指導をよろしく願います。

行事を節目として、その後の個人や学年を大いに成長させていきましょう